

# 令和8年度 一宮市立奥中学校 教育目標

## 1. 教育目標

知・徳・体の調和のとれた、未来を拓く「地道徹底・自立貢献」ができる生徒を育成する

**目指す生徒像** 「奥中に通いたい」  
校訓「三あい」を具体化した  
「元気いっぱい・笑顔いっぱい」な生徒像

**目指す教職員像** 「奥中に勤めたい」  
校訓「三あい」を具体化した  
「協働いっぱい・研鑽いっぱい」な教職員像

**学びあいのできる生徒**  
基礎知識を確実に習得しながら、課題の発見・解決に向けて、主体的、対話的、そして協働的に学ぶ生徒

**認めあいのできる生徒**  
自分の良さに気づき、他人の個性を認め、仲間を大切に作る心、そして周囲への感謝の気持ちを持つ生徒

**輝きあいのできる生徒**  
一人一人が高い自己肯定感・自己有用感を持ち、失敗を恐れずに新しい事に挑戦し笑顔と元気に満ちあふれた生徒



「OK！奥中（奥千万の感動を奥中で）」  
学校の勉強、心、運動のあらゆる面で「未知なるものを新たに知ることができる」「分からなかった事が分かる」「できなかったことができる」人が生きる源である「感動」が校内にあふれる学校づくりを推進する

**学びあいのできる教職員**  
授業公開を日常化し、学年や各教科で指導技術や生徒指導の知見、デジタルスキル等を互いに高め合う教職員集団

**認めあいのできる教職員**  
お互いの専門性や強みを認め合い、一人で抱え込まずに組織（チーム）で課題解決に当たる教職員集団

**輝きあいのできる教職員**  
自己の成長が、愛情を注ぐ生徒の成長につながることにやりがいを持ち、協力して「感動」を創り出す教職員集団

## 2. 経営方針：Well-being を広げていく学校づくり

生徒と教職員の「Well-being（幸せ）」を学校運営の真ん中に据え、以下の4つの柱で子どもの成長を支え、目指す生徒像を実現する

### 第1の柱：確かな学力の育成（知）

- ・教員は「感動のある、わかる・楽しい授業」の実現に向け自己研鑽に励み、学校は現職教育充実を図り支援する
- ・教員は生徒の基礎知識の定着を土台に、学習のあらゆる機会を活用し、言語活動（伝え合い・話し合い）を通じた思考力・判断力・表現力の向上を図る
- ・教員は各教科や総合的な学習の時間で「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した個別最適な学習の研究を推進する

### 第2の柱：豊かな心の育成（徳）

- ・教職員は生徒が自己の生き方を深く考える為に、自己有用感・肯定感をバランスよく高め、協働性・利他性・多様性を尊重できる集団づくりを目指す
- ・教員はQ-U・生活アンケート等を活用して生徒理解に努め、いじめ防止・不登校対策を徹底する
- ・教員は道徳科・特活を核に人権・福祉・情報モラルの指導を通し、生徒の実践力を伴う道徳性・社会性を育む

生徒・教職員の幸せ  
Well-being

### 第3の柱：健やかな体の育成（体）

- ・教職員は心身両面の健康観察の充実により常に生徒の命と健康を守ることを最優先する
- ・教職員は家庭と協力して、生徒が陥りがちな事故や病気の予防に努め、授業や発行物を通して食育やスマホ利用のルールづくり、体育活動を通じて望ましい生活習慣を定着させる
- ・教職員と生徒は、最大パフォーマンスが発揮できるように心身の健康状態の自己把握に努め養生する

### 第4の柱：信頼される学校づくり（和）

- ・教員は自分自身が生徒にとって最大の教育環境であることを自覚し「地道徹底・自立貢献」の姿勢を率先垂範する
- ・教職員はwebや各種たよりを通じて情報発信を強化し、地域と目標を共有するコミュニティ・スクールとして、保護者・地域の『知りたい・関わりたい』に寄り添い、信頼と協働の関係を築く
- ・学校全員の幸せの為に、時間外労働縮減、協働、業務処理能力向上、校務効率化などを図り、未来の教職員のモデルとなるような働き方改革を研究推進する

### 3. 教育目標を達成するための本年度の重点 『凡事徹底を常として、そして時には感動も』

#### ①感動を生み出すための重点

知 第1の柱：確かな学力の育成に向けて（学習指導のプロフェッショナルとして）

教員は、潜在的な学習環境が異なる一人一人に対し、個々の教育的ニーズを把握し、全ての生徒に希望を持たせるために、内外で積極的に研修や修養に努め、感動のある「わかる、楽しい授業」を目指した授業改善に努める

令和の日本型教育を具現化するために、探究的な学習の研究を推進する

徳 第2の柱：豊かな心の育成に向けて（教育心理のプロフェッショナルとして）

教員は、過度に画一化固定化しがちな人間関係に対して、日々の教育活動の中で多様な視点を与え、成功や失敗を価値づけながら説諭し、人と人との関り方を練習させる

体 第3の柱：健やかな体の育成に向けて（健康安全教育のプロフェッショナルとして）

教員は、男女が協力し共に学ぶ体育の授業や体育的な行事など、運動に親しむ機会を通して、楽しさや喜びの中でお互いの良さや違いに気づかせながら心身の成長と充実を図る

デジタル社会において生徒の尊厳を守り抜く（Well-being の担保）ため、情報モラル教育を学校・家庭・地域が連携して推進し、デジタル・シティズンシップの育成を推進する

和 第4の柱：信頼される学校づくりにに向けて（全体の奉仕者である公務員としての責務）

教員は、生徒に対して愛情が伝わるように説諭を工夫し、納得感を感じさせる指導を行う。必要に応じて指導前後に保護者へも目的や過程を説明することで、共感・理解を得る。

教職員は、困り感に寄り添った丁寧な対応を心がけ、子どもを「奥中に通わせたい」と考えていただけるように保護者・地域の信頼を得る。

#### ②凡事徹底の重点

- ・教員は、生徒に発表の機会を多く与え、互いの考えの良さを見つけ認めさせ、「聴く」「誉める」「認める」「自己決定」させながら、自己肯定感・自己存在感を高める。
- ・教員は、課題解決の過程を重視した授業展開を心がけ、自分の考えを持たせアウトプットさせるとともに他者の考え・意見との異同を受け止めさせ、自己決定の場を与える。
- ・教員は、ICT 機器やアナログツールのそれぞれの良さを生かした効果的な指導を工夫し、教え合い学習や協働活動を設定し、他者の発表を傾聴させ、共感的な関係を育成する。
- ・教員は、特別活動の安全指導を通して、自分の身を自分で守れる力を身に付けさせる。
- ・教職員は、「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、教職員間の情報共有を図り、早期発見・早期対応に努める。緊急性は考慮しつつ、担当者⇄学年主任・分掌主任⇄校務・教務主任⇄教頭⇄校長の各段階で報告・連絡・相談を行い、こうした熟議の過程を経ることで、組織力を強化し各自の議論・判断の力を高める。
- ・教職員は、「言葉の力」を高め、社会人としての接遇、気配り、目配りが行き届く潤いある学校づくりに努める。
- ・教職員は、地域に関わりかつ地域を越えた広い社会の課題に関心を持ち、未来を拓こうとする自立した生徒の姿勢を育てる。
- ・教員は、日常の生徒指導はプロアクティブなアプローチを意識する。リアクティブな生徒指導は、丁寧に事実と問題点を聞き取り、憶測ではなく正確に把握した内容に対して指導を行う。

